

北海道洞爺高等学校

問い合わせ先：0142-82-5053

I 学校の概要

- 1 児童生徒数、学級数、教職員数
生徒数65名（1年生22名、2年生16名、3年生27名）、学級数3、教職員数16名
(平成22年2月1日現在)

2 地域の概況

洞爺湖町は、活火山の有珠山や昭和新山、北海道有数のカルデラ湖である洞爺湖など豊かな自然環境に恵まれており、校舎も支笏洞爺国立公園特別区域に隣接し、環境教育推進の好条件に恵まれている。



3 環境教育の全体計画等

以前からボランティア活動として、地域内にある国立公園の美化清掃活動を定期的に行い、生徒にゴミ問題を意識させるとともに、自然環境保全の重要性を認識させている。また、教科「理科」や「総合的な学習の時間」において、豊かな自然に恵まれた立地条件を生かした環境教育を推進している。

II 研究主題

- 1 環境問題に関する地域の自然環境と人間生活とのかかわりについての研究
- 2 環境の変化についての定期的・長期的な研究

III 研究の概要

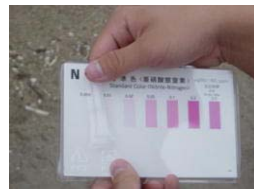
- 1 研究のねらい
 - (1) 地域の自然環境と人間生活のかかわりに関する科学的な調査を実施し、地域の環境保全を科学的な視点から生徒に考察させる。
 - (2) 定期的・長期的な調査を継続して実施し、この地域の自然環境と気象現象、季節変化、他の地域とのかかわりについて、生徒に考察させるとともに、地球的視野での環境保全について理解を深めさせる。
- 2 校内の研究推進体制
 - (1) 洞爺湖の各区域の水質の継続的観測（平成19年度からの継続）
 - (2) 洞爺湖の自然観察（洞爺湖内の地形、動植物の季節変化の研究）

- (3) 洞爺湖周辺における人々の生活状況の調査（ゴミ、生活排水などの調査）
- (4) 外部講師による講演会や実技研修の実施
- (5) 近隣の学校や地域と一体となった環境保全活動の展開

※ これらの調査を数年～10年と継続的にを行い、長期的な環境の変化が及ぼす人間活動への影響などを考察する。

3 研究内容

- (1) 第1学年の「総合的な学習の時間」において、「環境」について学習し、洞爺湖の観察や水質調査の体験学習を行った。
- (2) 第3学年の「理科総合A」の授業において、洞爺湖の水質調査を行った。



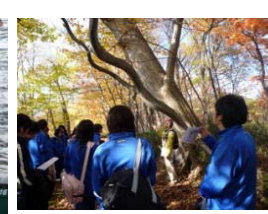
- (3) 第2学年の「理科総合B」の授業において、洞爺湖の動植物の観察実習と生物調査を行った。



- (4) 第3学年の専門教科家庭の「課題研究」において、洞爺湖周辺のゴミの処理について研究を行った。



- (5) 「総合的な学習の時間」における「ネイチャー体験」選択者には、地域の専門家による湖畔の動植物や湖の地形についての観察講習を行った。



- (6) 生徒の課題意識の高揚や指導教員の指導力の向上を目的として、外部講師による講演会を実施した。
- (7) 総合的な学習の時間等に地域の指導者を活用し、生徒の体験活動を充実させた。
- (8) 地域や外部団体の活動に積極的に参加した。

(別紙様式 2)

(9) 本研究推進のため、地域の専門家や研究機関(北海道大学洞爺臨湖実験所など)の指導と協力を受けた。

IV 研究の成果と第2年次に向けての課題

1 成果

(1) 水質調査を行うことにより、生徒が洞爺湖への関心を高めることができた。また、洞爺湖の水はきれいであることが分かり、時期、場所、水深による水質の違いを確認することができた。特に、この水質の違いは、人間の生活、農業排水や湖の生物の活動がかかわるのではないかと予想され、次に取り組む課題を見つけることができた(詳細は実践報告書を参照)。



(2) 水質調査以外にも、各教科、家庭クラブ活動、学校行事などのあらゆる場面において、環境にかかわる取組が継続的に行われている。また、環境教育推進委員会が中心となって、各教科等が行っている環境にかかわる取組をまとめることができた。

(3) 総合的な学習の時間などで実施している「クリーン洞爺」、第3学年「課題研究」、「洞爺ネイチャー体験」、「ウチダザリガニ防除体験」などの地域と連携した活動を通して、地域の自然への理解と環境保全に対する意識を向上させることができた。



(4) 本校生活ビジネス科における専門教科の特色を生かし、「家庭科」の調理実習や被服実習、「商業科」の販売実習と情報処理を組み合わせ、地域活動「ECOプロジェクト」を実施した。今年度のECOプロジェクトにおいては、地球環境保全をテーマに、「食における地産地消の取組」、「廃油石鹸」、「古新聞を活用したエコバッグ」の普及活動を行った。

(5) 環境講話を通して、生徒、教員ともに洞爺湖の自然環境を科学的にとらえることや、地球温暖化

等の環境問題について深く考えることができた。

(6) 研究を進めるに当たって、大学、環境省北海道環境事務所などの専門機関と連携することにより、活動範囲を広げるための基盤ができた。

(7) 「第12回全国環境学習フェア」、「エコ活! CUPin 洞爺湖」、「ネイパル洞爺 生徒会フォーラム」等の外部団体主催の活動に参加し、本校の環境保全活動について発表した。



2 第2年次に向けての課題

(1) 学校主催の成果発表大会を実施する必要がある。

(2) 学校全体として自然に対する科学的な見方や考え方を育成することが不十分であったことから、理科の授業を中心に全校生徒が体験できる活動を改善・充実する必要がある。

(3) 取組の評価と検証のための組織体制作りを進め、生徒の環境保全に対する意識等の変容について調査する必要がある。

V 研究第2年次に向けての課題

1 今年度までの活動を継続するとともに、生徒、教員ともに環境に対する意識をさらに高めることができるように、環境教育計画を作成し、組織的・計画的・継続的に取り組み、環境教育を一層の充実を図る。

2 水質調査においては、観測データを蓄積するとともに、洞爺湖周辺における人々の生活状況の調査や、湖の生物の調査を行い、人々の生活や湖の生物の活動が水質に与える影響について分析する。また、理科の授業において、全生徒に環境調査を体験させ、自然に対する科学的な興味・関心を高める。

3 地域に向けた学校主催の成果発表大会を実施するなど、研究の成果を発表する機会を設け、取組と成果を普及する。

4 活動内容の改善を推進するため、校内に評価組織をつくり、北海道立教育研究所附属理科教育センター及び大学などの外部研究機関の協力を得て取組の評価・検証を実施する。